

授業科目名	刑事手続論 I	期別	前期	授業形態	講義
担当者名	平江 徳子	単位数	2	開講年次	2 (19台以前)

授業科目の概要		
刑事手続のうち、主として捜査手続について、刑事訴訟法上の基本原理、条文、判例、学説等を学ぶことにより、刑事実務に必要な法的知識・法理論を修得させる。		
到達目標		
(1) 刑事手続全体の流れと、刑事訴訟法上の基本原理につき説明できる。 (2) 捜査に関する法律用語と刑事訴訟法等における根拠条文、条文解釈について説明できる。 (3) 捜査に関する主要な論点と判例および主要な学説による理論を説明できる。		
成績評価基準および方法		
定期試験 50%、中間テスト 20%、平常点（授業の準備・発言状況等）30%の合計による。 評価の基準は、捜査に関する基本的事項（基本原理、条文解釈、判例理論、学説理論等）について理解しており、その理解を的確に文章で説明できるか否かであり、相対評価を行う。		
テキストおよび参考文献		
教科書：宇藤崇ほか「リーガルクエスト刑事訴訟法第2版」（有斐閣）2018年 定価 3,600 円（税別）ISBN978-4-641-17933-2 *既に初版を持っている学生はそのまま使用してよい。 参考書：「刑事訴訟法判例百選（第10版）」（有斐閣）2017年 定価 2,500 円（税別）ISBN978-4-641-11532-3 教員作成の講義レジュメおよび判例資料等を事前配布する。		
履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）		
講義レジュメを手掛かりとしつつ、教科書、関連判例、参考書の該当箇所を精読し、問題点について事前に検討した上で授業に臨むこと（2時間程度）。授業では、レジュメに書いてある内容を補足したり、わかりやすく説明したり、例を上げたりするので、それらの説明を適宜レジュメに書き込むなどし、授業後の復習に活用してほしい。また、復習の際には、関連判例も再度読み返し、自己の理解を確認すること（2時間程度）。		
授業計画および内容等		
第1回	刑事手続序章	刑事手続・刑事訴訟法の役割 刑事手続に関する諸理念と現行刑事手続の構造 実体的真実主義、糾問主義と弾劾主義、当事者主義と職権主義 手続関係者
第2回	捜査1	捜査法の基本枠組み 捜査の意義、主体、理由 捜査に関する一般規範 捜査比例の原則、強制処分法定主義、任意捜査の原則、令状主義
第3回	捜査2	捜査の端緒 捜査の端緒の意義 職務質問・所持品検査 自動車検問 告訴告発等
第4回	捜査3	逮捕・勾留1 逮捕

第 5 回	捜査 4	逮捕・勾留 2 勾留 逮捕・勾留をめぐる諸問題（別件逮捕勾留を除く）
第 6 回	捜査 5	取調べ等 1 取調べの意義・手続 身柄拘束中でない被疑者の取調べ 身柄拘束中の被疑者の取調べ
第 7 回	捜査 6	取調べ等 2 被疑者以外の者の取調べ 証人尋問請求 別件逮捕勾留
第 8 回	中間テスト 1 および解説	序章、捜査 1 ～ 6 についての中間テストおよび解説
第 9 回	捜査 7	搜索・押収・検証等 1 搜索・押収 1 意義・対象 令状による搜索・差押え
第10回	捜査 8	搜索・押収・検証等 2 搜索・押収 2 令状によらない搜索・差押え 領置
第11回	捜査 9	搜索・押収・検証等 3 検証 鑑定等 体液等の採取 通信・会話の傍受
第12回	捜査 10	その他の捜査方法 人の容貌等の写真撮影、秘密録音等 おとり捜査、コントロールド・デリヴァリー
第13回	捜査 11	被疑者の防御 起訴前段階における被疑者の防御活動 弁護人の援助を受ける権利 身体拘束中の被疑者の接見交通権 違法捜査に対する対応
第14回	捜査 12	捜査の終結 警察における事件の処理 検察における捜査と事件処理 起訴後の捜査
第15回	中間テスト 2 および解説	捜査 7 ～ 12 についての中間テストおよび解説
関連 URL		
備考欄		
未修者は、1 年次前期の「刑事訴訟法入門」を履修済みであることが望ましい。		